

農業

平成30年6月号
会誌 No. 1639



目次

巻頭言

本物はどこにある？……………夏秋 啓子 3

論 壇

「家族農業の10年」と小農論……………田中 耕司 4

平成農業技術史研究会

第8回平成農業技術史研究会－環境問題の動向とその対応技術－

話題提供……………陽 捷行 6

地域セミナー 栃木

次世代の守攻農業に向かって…………… 24

基調講演

持続性のある地域・農業に向けての提言……………榊田みどり 24

－地域農業リーダーにこそ考えてほしいこと－

農と福祉の連携：働くひとたち……………越知眞智子 30

『あったもがんばん』

パネルディスカッション…………… 36

寄稿

大規模化する酪農を支える ICT 技術の現状……………加茂 幹男 46

農業・農村の現場から

世界農業遺産「能登の里山里海」を活用した地域活性化の
取組……………中出 吉彦 57

世界の農業は今

タイにおけるキャッサバの技術開発の進展と生産の現状……………岡 三徳 62

私の経営と志

私の農業履歴書……………栗原 広治 68

農政情報

…………… 70

大日本農会だより…………… 71

ミニ情報

ミカンの卸売数量および卸売価格の推移…………… 45

表紙写真説明

傾斜を利用した完熟梅のネット収穫（和歌山県田辺市）

和歌山県のウメは、栽培面積、出荷量ともに全国1位で、県を代表する特産物の一つで、みなべ町と田辺市で多く栽培されています。ウメは「青梅」として出荷されるとともに、「梅干し」として加工されています。品種は「南高」が中心で、「南高」は皮が柔らかく果肉が厚く、「梅干し」用としては最高級の品種です。

6月初旬から7月上旬にかけてが「南高梅」の収穫の最盛期で、梅酒や梅ジュースに使われる「青梅」は手でもいで収穫しますが、「梅干し」用は6月中旬以降に完熟して自然落果するのを待ちます。農園では、収穫期前に地面をネットで覆い、落下でウメの実が傷付くことや汚れることを防ぎます。傾斜地の園地では、転がったウメの実が集まるようにネットを設置し、網で丁寧にすくい収穫します。

収穫されたウメは作業場に運ばれ、すぐに選果・洗浄後に漬け込みを行い、夏期の土用干しを経て「白干し梅」に加工されていきます。

（写真：田辺市 船本幸雄，文：和歌山県西牟婁振興局農業水産振興課）